

おはようございます。44日間の長い夏休みが終わり、今日から2学期、新学期です。1学期の終業式で「有終の美を飾る」ことについて、大宮西高校のフィナーレもさることながら、皆さんに残された高校生活の有終の美をいかに飾るかということが何よりも大切だ、そしてその最重点事項は、卒業後の進路を自分自身が納得のいく形で実現することだ、そのために一生のうちで7カ月くらい、とことんのめり込んで勉強してみなさい、とお話ししました。半年後の遥かな高みを目指して、とことんのめり込んで勉強してみましたか？

さて、2学期始業式に当たって、私から三つの話をします。

一つ目は、皆さんの新たなスタートについてです。

ありがたいことに本校には、毎年、新学期が3回あります。新学期は、言うまでもなく、リセット、リスタートのチャンスです。仮に1学期が不本意に終わった人でも、仮に夏休みがなんとなく過ぎてしまった人でも、新たなスタートが切れるチャンスです。

既に調査書を受け取った人も少なくありません。AO入試などでは面接練習も始まっていますが、今日から6カ月間、わき目もふらず、自分の進路の実現に向けて、しっかりがんばってください。って、無理ですよ。文化祭は再来週末だし、体育祭まであと1カ月。

ならば、自分の進路に向けた準備と、文化祭・体育祭に向けた準備の、どっちもがんばりなさい。両立することは難しいけれど、できないわけではない、どこの学校でも同じような状況の中でがんばっています。両立できるというところを、しっかり見せてください。

二つ目は、その文化祭についてです。

文化祭は準備の過程こそが楽しいものですが、その成果としての当日を楽しみにしています。12日の金曜日は校内公開です。外部の人はいません。自分たちが楽しむための日です。そこでは、皆さん自身がホストであり、皆さん自身がゲストです。思う存分、自分たちだけで盛り上がり、楽しみましょう。

13日の土曜日は一般公開です。西高の文化祭を楽しみにいらっしゃるお客様が大勢います。昨年も2千人くらいの来校者がいらっしゃいました。皆さんの友達や家族、西高の近隣にお住まいの方や卒業した先輩方。これらの方々に十分楽しんでいただいて、満足して帰っていただくこと、それこそが一般公開の目的です。そこでは、皆さんはゲストではなく、全員がホストです。お客様を温かく迎える気持ち、校内の道案内、アクシデントへの対処などなど、皆さん全員が主催者としてやるべきことはたくさんあります。そういう意味では、一般公開の対象になっているのは、企画や展示、発表だけではなく、実は皆さん自身でもあるのです。皆さん全員が、一般公開の対象なのです。

ディズニーランドを想像してみてください。人気アトラクションに、大勢のスタッフが自分たちのために並んでいるとしたら。レストランで客を押しつけて飲み、食い、騒いでいるとしたら。ゴミを拾い集めるどころか、平気でまき散らしているとしたら。あり得ないでしょう。

皆さんは、「そんなこと、言われなくても分かっている。」と思うかも知れません。でも、これまで35年間、高校に関わる仕事をしてきて分かったことは、それが実践できる高校生は決して多くないという事実です。でも、今年の西高生は違うというところを見せてください。皆さんならできるのではないかと期待しています。なぜなら、皆さんの中には、

最後の西高生としての「誇り」があると思うからです。文化祭での皆さんのホスピタリティ、おもてなしの心に期待しています。

三つめは、防災についてです。

毎年9月1日は、防災の日です。これは今から100年近く前の1923年、大正12年の9月1日の正午少し前に、関東大震災が起こったことにちなんで定められました。死者が10万人を超えた関東大震災は言うに及ばず、1995年の阪神・淡路大震災、8年前の東日本大震災、3年前の熊本地震、去年9月の北海道地震など、甚大な被害を出す地震は、茶飯事と言えるくらい発生しています。

関東から九州まで広域に被害を及ぼす南海トラフで想定されるマグニチュード8から9の巨大地震が今後30年以内に発生する確率は、「70%程度」とされていたものが、今年の政府の発表で「70%から80%」に引き上げられました。その確率の差はなかなか実感できませんが、「東日本大震災を超える規模の震災が、30年以内にほぼ起こる」と考えていいと思います。

以前にも話しましたが、「30年以内に」というのは「30年後に」ではなく、来年かも知れないし、明日かも知れないし、10分後かも知れないということです。その時に私たちは、自分の命を守り、他人の命を助ける適切な行動が取れるだろうかということです。

地震に限らず、地球温暖化の影響なのか、台風や集中豪雨など、死者が出るような大きな被害をもたらす気象災害も、毎年のように発生しています。しかし、台風はまだ予報がありますが、地震の予報はほとんど不可能です。そのため被害を未然に防ぐことは難しいですが、被害を最小限に抑えることはできます。とは言え、防災のための備えや心づもりをしましょう、と言うことは簡単ですが、実際に行うのはなかなか難しい。こんなことを言っている自分自身も、十分な備えはできていません。必ず起こる「いざという日」のために、自分たちで準備できることは怠らずに、さぼらずに準備しておきましょう。決して他人事ではありません。

以上で私の話を終わります。今学期もまた、皆さんの活動を楽しみにしています。